



六中だより

～自主・勤勉・共生～

No.7

令和6年1月発行
港区立六本木中学校
校長 松島 智子

2024年の年頭にあたって

校長 松島 智子



新年、明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いたします。
まずは、元旦に起きた、能登半島地震の被害にあわれた皆様に対し謹んでお見舞いを申し上げますとともに、お亡くなりになられた皆様のご冥福をお祈りいたします。

新年を迎え、帰省した家族とみんなでおそらく団らんを囲んでいたであろう時間、夕方の4時すぎに地震は起きました。日暮れが近かったため、被害の状況や詳細がなかなか情報として入ってきませんでした。テレビではアナウンサーが、津波のことを取り上げ「命を守るため、今すぐ逃げてください。」と言い続けていました。これは東日本大震災の教訓があったからだと思います。しかし、今回は地震直後に津波に襲われた地域もあり、すぐには逃げられなかった方もいたそうです。1週間以上経った今もまだ、倒壊した建物の中に取り残されている方もいます。また、多くの箇所道路の亀裂や土砂崩れによって生活道路が寸断され、孤立している地域もあり、十分な支援が行き渡っていません。さらに降雪により、救助作業が難航していると聞きます。助かった方々も避難生活が長引くにつれて、心身ともに疲弊していきます。とにかくまずは、被災した皆さんが温かい場所で、安心して過ごせる環境を一日も早く、作って差し上げてほしいと願うばかりです。

大きな地震が起こるたびに、私たちは無力感を感じずにはられません。予想していたそれ以上のことが、起こっているからです。「いざというときに備えて」これまでも準備はしていますが、それは被災した土地の状況や時期によっては一律ではなく、条件によって準備の様子も違ってきます。今後はこのようなことも考えて、必要な備えや支援について準備していかなければなりません。



さらに2日には羽田空港で旅客機と海上保安庁の輸送機が衝突するという事故が起きました。この事故では、旅客機に乗っていた乗客367名、乗員12名の計379名は無事に脱出できたということです。わずか5分内で、これだけの人数を機外に脱出させることは、日頃からの訓練ができていたからだとされています。訓練では「90秒ルール」を徹底していると聞きました。実際にはパニックになったり、冷静さを欠いてしまう中で、今回の全員脱出が可能になったということは、日頃からの訓練が活かされ、避難誘導がスムーズに行われたからこそだと思います。非常時に生きてこそその訓練です。日頃の訓練がいかに大切であるかということをお知らせされた事故でした。

(裏面に続く)

さて、そのような大変な中、行われた今年の箱根駅伝。終わってみれば、青山学院大学が往路、復路とも素晴らしいタイムで総合優勝を果たしました。就任20年目の青山学院大学の原晋監督は、今年のテーマを「負けてたまるか大作戦」と名付けて挑みました。このテーマは、2014年末に「ワクワク大作戦」と発表し、2015年の箱根駅伝でチームの初優勝を遂げて以来、青山学院大学の“名物”となっています。原監督は次のように話しています。『箱根駅伝は毎年大きな記者会見があり、メディアの皆さんが大勢集まってくれるにもかかわらず、取材を受ける大学側の監督や学生から大会を盛り上げようとするような言葉を聞くことがほとんどなかった。箱根路という大きな舞台でレースができて、恵まれた環境にいるのに、私たちに注目をしてもらうための「言葉」を誰ももっていないなど。そこで、博打かもしれないけど「これは一発、おもしろいことやらんとイケんな」と勝手に思ったのが始まりでした。学生駅伝そのものを盛り上げたい、チームに注目してほしい。そのためにまず、チームを率いる監督として自分が「言葉」をもつこと。それを大切に作る姿勢が「〇〇大作戦」に込められている。』そうです。

その思いは選手にも浸透しています。箱根駅伝では総合優勝したチームのメンバーが翌日のテレビ番組に出演するのが恒例となっていますが、青山学院大学の学生は台本が無くても、みんなが自由に話せます。やはりそれは、日頃から監督がどのような時も、考えや意思を「自分の言葉」で発信するようにと伝えているからです。例えば、「時代のキーワード」を何か1つ入れてみるのもいい。陸上部員も陸上だけやっていればいいわけじゃないし、立派な「社会の構成員」として、しっかりと考えた上で、自分の言葉で宣誓をしてきなさいとアドバイスをしているそうです。また、青山学院大学の駅伝チームではミーティングなどで、原監督が選手に社会問題に対する意見や考えを問うことも少なくないそうです。



学生に「問い」を投げかける意図について、原監督は、『今までは大人や指導者に言われたことを素直に聞くのが「良い子」で、自分の意見を伝えたり、主義・主張を並べ立てたり反論したりする子は「理屈っぽい子」とか「生意気な子」とか、そういう様な見方をされがちでした。でも、そうじゃない。「自分はこう思う、こうしたい」と自分の言葉をもって相手に伝えられる、そういう人が「良い子」なのではないかなと思っています。青学の駅伝チーム、に入りたいと思っている学生も増えてきたと思いますが、ぜひ、自分の考えを自分の言葉で人にきちんと伝えられる人に入ってほしい』と言っています。

このように日頃から、会話を重んじ、話す機会を増やすことを積み重ねた結果、学生たちが自分なりの考えをもち、自らの言動に責任をもたせることで自信となり、さらに「〇〇大作戦」のような奇策を講じることによって、チームの士気が上がりより強固なものとなって、結果に表れてくるのだと思います。

さあ、1年のまとめの3学期となりますが、皆さんはどのような学期にしたいですか。さらにその先を見据えてどのような1年にしたいと考えていますか。3年生は受験を控えていますので、これまで努力してきた成果が発揮できるように、体調管理も含めて自己管理をしっかりと行い、希望の進路を切り拓いていってください。1・2年生も、今、やるべきことを後回しにせず、今、やりましょう。時間は待ってはくれません。1日1日を大切に、1時間の授業を真剣に取り組んでいきましょう。原監督ではありませんが、「〇〇大作戦」のようにやるべきことを自分なりの言葉にしてみてもいかがでしょうか。